



家庭倫理の会は「よくする活動」を推進しています
家庭を、地域を、日本を、地球をよくする 活動を推進しています

特集・家庭倫理講演会

参加者 146名 内未会員 66名

大型連休の初日4月29日、さわやかな五月晴れの午前中に開催された。来賓の田中大輔中野区区長の挨拶の中に「人は鏡万象わが師」を实践し、役所内でも朝、自分から挨拶するようにしたとか。栗山会長は「お父さんお母さんの子どもに生まれて本当に良かった」とお嬢さんからの嬉しいメッセージを挨拶の中で話された。

中西康成研究員の講演では

1. どのような家庭にしたいか目標を持つ
 2. 夫婦愛和のポイント
 3. 親として(子どもから学ぶ)
 4. 親の子として等のレジメがあり
- 「単に勉強ができるだけでなく、バランスがよく

運動やその他の面でも力を発揮する事が多い本当にかしこい子どもの家庭の特色は5つある」・陰山英男(立命館大学教授)を引用して話された、又家族に愛情の水を注ぐ等の話が印象に残りました。

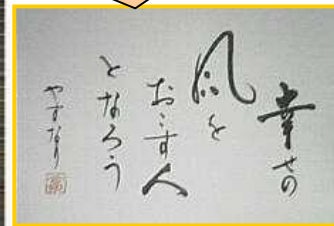
5つの特色とは 1. 親が温和である 2. 時間 3. 親自身も読書の習慣がある 4. 早寝早起き 5. 整理整頓(特に玄関・トイレ・食卓)参加した方からは分かりやすく、ユーモアを交えながら、時代にあったお話で大変素晴らしい講演会でしたと喜ばれました、栗山米菓の社員の方達も参加されパワーが溢れて会場満席で大盛会でした。・町田のぶ 記

4月29日(祝)10:00~11:45 講師:中西康成研究員
テーマ:家庭を良くする なかの芸能小劇場(定員110名)



先ずは会場に盛会を願う感謝をこめて清掃(5:30)

中西康成研究員よりメッセージ



舞台上に挨拶(9:05)

受付・集計・図書係りこの笑顔、流石!



進行の真木佳子さん・病氣療養中のお母様が買ってくれたと言うスーツ姿で



ドキドキに見えます



場内係・超満員でしたが上手に誘導して下さいました。主人が聞きに来てくれたことが最高の動員ですと桐山さん

区と共催の子育てセミナーに参加してくれた方が2人来てくれました、やりがいが見えました!と嬉しそうに語る内倉さん

場外係りの伊倉さん、舟久保さん、嘉山さん写真がなくてごめんなさい



舞台係り



本番前のり八



懐かしい顔も見えました

特集・第5回体験発表会

4月18日(日)5:15~5:45 天神会館にて開催された。

報告者は野澤礼子さん、真木佳子さん、豊島真さんの3名 解説は池田八重子副参事

野澤礼子さん 93歳入会 S35.10.1 「孫の東京都公務員試験合格の喜び」と題して発表



息子、孫3人と同居。元気な嫁が乳癌で、気が付いた時は手遅れでした平成16年2月に3人の子どもを残して亡くなり、一瞬にして今までの幸せな家庭が大変な事になりました、すぐにご指導を頂くと“貴方が必要だから長生きしているんですよ、嫁の代わりにしなさい”と云われました、息子からはこれからは皆で心を合わせてやりましょうと言われました。そんな時勤めていた上の孫が東京都の公務員になりたいと言い出し試験を受けましたが、一年目は3次面接で惜しくも不合格となり、どうしたらよいかと相談された時、外の清掃、履物を揃える、フロアの掃除、自分のものは自分で洗濯し、朝は早く起きて足元から実践し続けなさいと言い、又孫だけの試験と思わず親子全員のものとして家族全員が心を合わせて実践しました。法人向けの「職場の教養」もよく読んでいました。自分は3時半に起き、トイレ掃除、ご先祖様の花の水を取り替え、お経をあげ、皆の朝食を作り会場に行きました、2年目には100名中2番で合格しました。亡くなった嫁に報告し、生きている喜びを感じ、これからもご恩返して勉強をしていきますと元気に報告。

解説：長い期間まじめにコツコツといつも変わらず続けている様子には感心していますが、一寸先は闇とありますが、倫理では苦難に出会った時、どう受け止めるかが倫理の眼目であり分岐点となります、お嫁さんが亡くなり、大苦難に合われた時、息子さんが“家族みんなで仲良く、協力していこう”と前向きに明るく受け止めた姿は、日ごろの野澤さんの真摯な姿勢の反映でしょう、又毎日の積み重ねが健康とお孫さんの合格につながったのでしょう。継続は力ですね。「苦難をよしと受け止める、福門である、天の試練である、美である」ここまで学びを深めたいですね。ここは「万人幸福の菜2条」の所でしょう。

真木佳子さん 48歳 夫婦と子ども4人の6人家族 入会 H20年8月 週3回認知症専門のデューサービスの非常勤



バスケットで国体にまで出た長男が大学を2年も留年、長女も入社した会社をすぐにやめ、次女も受験に失敗し泣いてばかりの状態、辛くて、今まで自分がしてきた教育は何だったのか、何が悪かったのかと自信がなくなり希望が持てず、気持ちが沈んでいる時に倫理に出会いました。生活倫理相談を受けると1、主人に心を合わせた生活をする事 2、おはよう倫理塾に通う事 3、命のもの両親に繋がり、お詫びし感謝の気持ちを真心で伝える事 4、子どもの事は心配せずに信じきること と教えられました。

「おはよう倫理塾」では温かく受け入れられ、先輩たちはずっと年上なのに肌艶もよく、元気で、姿勢もよく、ビックリしましたし通ってみようという気になりました。主人や子どもたちに対し不足不満で一杯だった私のわがママが子どもに表れたのだと知り、主人に詫び、よく会話するようになり、朝はごみ出しもしてくれるようになりました。今では長男は主人の仕事の手伝いしながらバスケットのコーチをするなど忙しくしています、長女は留学し奨学金を頂き、海外生活を楽んでいます、めめそしていた次女も付属の大学に入りサークル活動、アルバイトと気持ちも落ち着いています、中学時代皆勤賞を頂いた一番下の次男は自分の希望する高校に入学しバスケット部のキャプテンとして全国大会を目指し活躍、勉強にも高い目標を持っているようです。主人に心を合わせるにより子どもたちも良くなると信じ「菜」を人生の教科書として学んでいきます。と辛い思いが去来したのか声を詰まらせる部分もあった。

解説：夫婦だから分かっていると思っている、当たり前と思っているところに落とし穴があるんですね。反省し実践し素晴らしい結果に繋がりましたね。子どもに現れてくる色々な事は“お母さんよく分かってよ”と訴えたい時、又何かをやって欲しいときに行動になって現れてくるものです。菜4、5、6条をしっかりと読みになると良いですね、それにしてもまだ1年にも満たないでこれだけ倫理を掴むとは素晴らしいです。

豊島真さん 47歳 半年前から単身赴任で東京在住、4月より家族(妻、長男は新潟、長女、次男、次女)と一緒に住んでいる。



自分以外新潟県を離れた事がない家族を東京に呼び寄せるにあたり中学校進学の子の事が気に掛かっていた。鈴江章研究員よりお嬢さんが一番心配ではあるが、夫婦の心・考え方が一致していれば乗り切れますよと忠告を受け、どうしたらスムーズに移動できるか、子どもたちには東京行きをどの時点で伝えるか妻とよく話し合い、ぎりぎりまで伝えないでおこうと言う事になった、しかし、いざ伝える段になると案の定、娘は嫌だ嫌だと泣き出した、妻は娘の心をよく分かってやり、東京に行ってもよい友達ができる事、こういう経験はめったにできない事など愛情を持って接した。一方、親に預かって貰うことになった息子の方は推薦枠入試には失敗したが一般で同じ高校へ合格することが出来た、新潟へ残していくのは心配であるが、いずれ一人で荒波を乗り越えて行か

ねばならないのだからと妻とも話して納得している。入試にあたり、夫婦で学校の門に手を触れてお願いする、入った学校が一番と思う事、入試が終わっても発表まで気を抜かない等も教えられた、縁起を担いで昼食・夕食「トンかつメニューを3日間続けたりもした、改めて自分の入試の時も両親はこんな大変な思いをしたのだろうかと思ひ及ぶ事も出来た。いずれにせよ理屈めきで、こだわり、我を捨ててやってみる事、どんな困難にぶつかっても夫婦の心を合わせる事を生活の指針とし、又多くの方に倫理をお伝えしていきます、と確信を得た報告でした。

解説：旦那様にぴったりと合わせた奥様が素晴らしいですね、言い含めるのではなくお子さんの身になって、悲しさ寂しさを共有し時間をかけて事情を分かってもらい、納得のいった所で、行動に移すなどなかなか出来るものではない。純粋倫理実践の基本10ヶ条の中の、“即行”“結果にとらわれない・天の領分”“慎終・気を緩めない”このあたりの実践をしっかりとなさったという事でしょう。